

1 「本質的な問い」による単元(題材)構想について

- 本単元の本質的な問いに対して、現実的かつ身近な問題であったことから、生徒は自分事として捉え、単元を通して自己の考えを深めることができた。また生徒は本質的な問いの解決に向けて、いま何をしないといけないのか、何のために勉強しているのかを実感でき、意欲的に取り組める構成となった。
- 日常的な問題を解決することに時間を割きすぎてしまったので、数字が複雑になってしまい、計算に戸惑う生徒が見られた。問題は日常に近づけながら、基礎を身に付ける時間、演習問題に取り組む時間、日常的な問題を解決する時間を区別し、段階的に日常の数字に近づけていくような工夫が必要だった。

2 単元(題材)で育成を目指す資質・能力について

	本単元正答率	正答率毎の割合		
		C: 0~40%	B: 40~80%	A: 80~100%
1次方程式	44%	49%	39%	12%

【知識・技能】

- Aの割合が12%あり、この割合は前回のテストからも維持できている。
- 正答率が0~40%の生徒の割合が約半数に迫り、基礎基本の定着ができていない生徒が多いと考えられる。授業のなかで繰り返し復習をしたり、課題など家庭学習と結びつけたりして基礎学力の定着を目指していきたい。

【思考・判断・表現】

- 授業のなかで話し合いを積極的に行い、生徒の多様な考え方を全体共有したことで表をかいて問題に取り組む生徒や図をかいて問題に取り組む生徒など、多数の方法で問題に取り組むことができ、多様な表現方法を養うことができた。
- パフォーマンス課題が、生徒にとって解決したい、考えてみたいと意欲の湧くものであったことから、生徒が主体的に学ぼうとして、話し合いが活発に行われ、多面的・多角的視点を養うことができた。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 生徒の発言から問題を取り上げて解決することもでき、自分自身の生活を振り返りながら、数学の良さを感じ、主体的に数学を生活に生かそうとする態度を養うことができた。

3 「デジタル機器」の活用

- 一元一次方程式の問題を、動画を見せることで視覚的な支援ができた。また全体の話し合いの場において、タブレットで意見を共有することで周りがどんな意見を持っているのか、自分の意見と比較したり関連させたりことができ、生徒の思考の深まりを支援する役割を担うことにも繋がった。
- タブレットを使った意見の共有で終わらせずに、そこからさらに自分の意見を再構築する時間を確保し、自己の考えの過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う機会を設ける必要があった。